

# チャンス・チャレンジ・チェンジ

秋田県立養護学校天王みどり学園 加賀谷 勝

## 新学期がスタート!

- ・子どもも大人もドキドキしながら迎える新学期。この時期は子どもに安心感と所属感をもたせることが課題となる。子どもの不安を和らげるためには、教師が積極的に自己開示するとともに、学級全体で取り組める活動（自己紹介、ゲーム、作品づくり等）を設定することが大切である。子どもは分かりやすく教えてくれる人を好きになるので、4月の出会いは信頼関係を結ぶ大きなチャンスとなる。

### 1 分かりやすい環境設定

#### (1) 教室環境の配慮

- ・掲示物や雑音を減らして刺激を少なくする。(黒板周辺の掲示物は最小限に)
- ・下足・自転車置き場、ロッカー等、子どもたちが安心して使えるように工夫する。

#### (2) 学習面の配慮

- ・4月は変則的な活動が続くので、1か月・1週間・1日の流れが分かるように提示して見通しをもたせる。(分かるための支援→いつ、どこで、だれと、どのような手順で、どれだけ、いつまで、次に何があるのか)
- ・予定変更は分かった時点で知らせる。

#### (3) 生活面の配慮

- ・基本的な学級のルール(聞くときの姿勢、授業中に教室を出るときの約束等)を明文化して、決定権の誤解を防ぐ。→教室を無法地帯にしない!
- ・子どもの得意な面が発揮できる係活動を用意する。  
例:そろばんが得意であれば購買係として計算を担当する

### 2 子どもの実態把握 (1年生は最初で最大の支援のチャンス!)

- ・引継ぎ資料と実際の子どもの様子に差がみられることもあるので、必要に応じて出身校(園)と情報交換を行う。
- ・「～しかできない」ではなく、「～があれば～できる」というように、子どもを肯定的にとらえる。(教師の子どものとらえ方や考え方が学級全体に影響する)
- ・子どもとの関わりは、できるものではなく、つくるものである。子どもの好きな活動を通して一緒に楽しんだり、驚いたりすることが信頼関係を築く近道となる。「〇〇傾向、△△障害」という視点ではなく、共に活動する中で、子どもの気持ちや考えを理解する。

### Q 小・中学校において「個別の指導計画」作成の対象は?

- A
- ①特別支援学級に在籍する児童生徒(通常の学級に在籍する児童生徒よりも詳細な計画が必要)
  - ②通級指導教室を利用する児童生徒
  - ③通常の学級に在籍し、学習・行動上個別の支援を必要とする児童生徒(診断名はついていないが、担任の気付きや支援会議等で特別な配慮を必要と思われる児童生徒についても作成する)
  - ④特別支援教育支援員が配置がされている学級に在籍する支援対象児